

令和5年1月吉日

各 位

鹿児島大学国際島嶼教育研究センター
交流企画部会長 柿沼太郎

国際島嶼教育研究センター第227回研究会のご案内

国際島嶼教育研究センター第227回研究会を下記のとおり開催いたします。皆様方の多数のご参加を心よりお待ちしております。

記

日 時：令和5年2月6日（月）16時30分～18時
会 場：総合教育研究棟5階 国際島嶼教育研究センター会議室
（〒890-8580 鹿児島市郡元1丁目21-24）
中 継：鹿児島大学国際島嶼教育研究センター奄美分室
（〒894-0026 鹿児島県奄美市名瀬港町15-1 奄美群島大島紬会館6階）
WEB：Zoom
参加費：無料（通信費は参加者負担）

日本列島におけるバナナの栽培・利用の動向について

佐藤靖明（長崎大学多文化社会学部）

【要旨】

従来、日本におけるバナナの生産は、主に亜熱帯に位置する南西諸島や小笠原諸島に限られていた。しかし近年、これまで不適とされた温帯の九州、四国、本州、北海道でも栽培が試みられており、全国的な変化の中にある。本発表ではこのことに注目し、日本列島でのバナナの栽培・利用の動向を概観する。

人類とバナナのかかわりをみると、熱帯・亜熱帯の各地で発達した在来的な農耕文化と、熱帯での大量生産と温帯・冷帯への大量流通・消費という2つが顕著である。そして現代では、病虫害の世界的な広がりや、フードマイレージ、生産者と消費者間の対等性といった問題が指摘されている。それらを考えたとき、日本での新たな動きは、南西諸島等も含めた日本人のバナナに対する価値観や、生産～消費の流れの変化を予見させるものといえる。

2018年までの国産バナナの新聞・雑誌記事から、九州以北のバナナの農園は大まかに以下の3種類に分類された。一つ目は、消費者への販売を中心とした経営をおこなう農園（販売特化型）、二つ目は、収穫イベントや植物体のオーナー制度など、体験活動の方を中心に据えた経営をおこなう農園（体験重視型）、そして三つめは、個人的な趣味の延長線上でバナナを小規模に栽培しており、贈答や、まれに販売がなされる農園（趣味+ α 型）である。2018年以降は、さらに多様な栽培・活用の方法がみられ、生産者間での情報交換も活発化している。その一方で、バナナの植物としての特性や、個人的なネットワークに依拠して広まってきた経緯もあり、生産者にとって品種の同定が難しいといった状況も生まれている。

【対面式でのご参加（要登録・人数制限あり）】

新型コロナウイルス感染症の予防の観点から、ご自身の体調を十分お考えのうえ、ご参加ください。また、ご参加いただく際には、マスク着用等、感染防止にご協力ください。センター会議室は先着15名様、奄美分室は先着9名様とします。

対面式でのご参加をご希望の場合は、下記の情報をメールまたは電話にて2月2日（木）までにお知らせください。なお、新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、対面式を中止する場合もございますのでご了承ください。

お名前（必須）：

お電話番号（必須）：

ご所属先：

ご住所：

メールアドレス：

メーリングリストへの登録の希望の有無：

初めてご参加いただく方で、今後、当センターの研究会やシンポジウム等の案内をご希望の方は「希望する」とお書きのうえ、メールアドレスも必ず記入してください。

【オンライン（Zoom）でのご参加（要登録）】

インターネット環境とパソコン、スマートフォン、タブレット等があれば、ご自宅やオフィスからご気軽にご視聴いただけます。通信費は参加者負担となります。

オンラインでのご参加をご希望の場合は、下記の情報をメールにて2月2日（木）までにご連絡ください。Zoomの視聴方法については、参加登録後に届く、登録確認メールをご覧ください。

お名前（必須）：

メールアドレス（必須）：

ご所属先：

ご住所：

メーリングリストへの登録の希望の有無：

初めてご参加いただく方で、今後、当センターの研究会やシンポジウム等の案内をご希望の方は「希望する」とお書きください。

【ご連絡先】

対面式（申込期限：2月2日（木））

センター会議室：shimaken@cpi.kagoshima-u.ac.jp または 099-285-7394（担当：西）

奄美分室：amamist@cpi.kagoshima-u.ac.jp または 0997-69-4852（担当：財部）

オンライン（Zoom）（申込期限：2月2日（木））

yotsuka@cpi.kagoshima-u.ac.jp（担当：大塚）

（なお、対面式後の懇親会は、当面の間、開催いたしません）